2026年11月26日所長会見　所感

○　まず、11月22日に、発電所構内新事務本館建設エリアにおいて、協力企業作業員の方が、ガラスの下敷きになり、ご逝去されました。

○　亡くなられた方、そしてご遺族の皆さまに心からお悔やみ申し上げます。

○　発電所長として尊い仲間の命を失う結果となってしまったことを大変心苦しく思っております。

○　さらに、９月に災害が続いたことを受け、幹部級による現場パトロールを実施していたさなかの事故であり、未然に事故を防げなかったこと、忸怩たる思いであります。

○　本件を踏まえ、発電所における工事は安全が確認できるまで全て中止しております。

○　今週火曜日には、社員に対して緊急の朝礼、協力企業のみなさまに対しては臨時の安全推進協議会総会の場で、私からも直接話をしました。

○　自分たちであればどうしたらこの災害を防げたか、自分たちの現場の危険源をどうしたら見極められるか、対話活動をするようにお願いをしたところです。

○　また、本日の午後にも、災害が起きた現場に協力企業のみなさま含め集まり、災害の状況を確認しながら議論をする合同検討会を開催する予定としております。

○　他のガラス施工業者さまや、社内で安全を専門としている者の知見を活用しながら、まずは今回の災害の発生原因について全力をあげて調査してまいります。

○　このような痛ましい事故を二度と起こさないという決意で再発防止に努めてまいります。

○　本日私からは、２点お伝えいたします。

○　１点目は、当所の特定重大事故等対処施設、いわゆる特重設の工事工程についてです。

○　特重設の工事完了時期については、2025 年２月時点で、工程精査中の状況ではありますが「７号機は 2029 年８月を目途」、「６号機は 2031 年９月に仮置き」と公表しておりました。

○　今月上旬に、主要構築物を建設している施工会社より「これまでの施工実績、現場環境や作業員確保の状況を鑑みると、計画していた同時期の並行作業が実施できないことや、作業習熟による効率化が見込めない事が判明した」との報告を受けております。

○　これにより「１年以上の工程見直しが必要」との見解を正式にいただいております。

○　また、これとは別に、７号機特重設の主要構築物の一部において、施工上の問題からコンクリートの仕上がりに不均一な部分があることを確認しております。補修方法について現在検討を進めているところです。

○　このコンクリート補修については、再発防止の観点からも、詳細な原因究明や調査が必要であり、工程への反映について時間を要する見込みです。

○　当社としましては、こういった現場実態の中で、無理のある工程短縮を図ることは、かえって安全や品質の低下につながりかねないと考え、今回、特重設の工程を見直すこととといたしました。

○　現時点では、新たな工程を決定することは難しい状況にあり、見直し後の具体的な工程が決まったものではありません。

○　安全を大前提とした上で、現場実態を踏まえた具体的な工程を検討してまいりたいと考えております。

○　工程見直しに伴う７号機の再稼働時期につきましても、今お示しできる段階にはありません。

○　まずは６号機特重設の設置期限、すなわち 2031 年４月を目指したいと考えておりますが、安全最優先を前提として工程を検討してまいります。

○　工程ありきではなく、作業安全、作業品質を確保したうえで、一つひとつ着実に特重設の工事を進めてまいります。

○　２点目は、核物質防護に関する取り組みについてです。

○　核物質防護については、原子力規制委員会の指摘事項となる不適合案件が続けて発生しており、「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」や、各第三者委員会においても厳しいご指摘をいただいております。

.

○　また、新潟県からも、再発防止の徹底など、厳格かつ適切な対応を求める要請もございました。

○　地域の皆さまにもご心配をおかけしており、発電所長として大変重く受け止めております。

○　過去の赤判定事案を踏まえた改善措置活動においては、一定の成果は得られていると考えております。

○　一方で、至近の不適合を踏まえると「自らを証明する必要性」、「内部脅威への意識」、「適切な業務管理」などで、さらなる改善が必要と認識しております。

○　これまでお伝えのとおり、現場を支えるリーダー層を強化していくとともに、発電所で働く一人ひとりがルールの意味を理解し、適切に行動に移せるよう取り組んでいるところです。

○　加えて、至近に発生している不適合は、規制要求やマニュアル、手引き等に応じた現場設備・業務実態となっていない案件が散見されており、今一度、現場実態を確認する必要があると考えております。

○　現在、核物質防護の設備・業務について是正すべき内容を洗い出すべく、改善措置活動、いわゆるＣＡＰ活動に精通したメンバーを発電所内複数の部門から集め、チームを編成しているところです。

○　当所は警備エリアが広大で、かつ働いている所員が 6,500 人を超えることに加え、現在はいわゆるセットバックや特重設の工事が行われていることなど、所内の環境に変化がある状況です。

○　そのような当所で厳格にセキュリティ管理をしていくためには、日々の気づきや兆候、不適合を、大きな問題につなげないことが重要です。

○　一つひとつ丁寧に原因を確認し、対策を図ることこそが、発電所のセキュリティ強化につながると考えており、今後もＣＡＰ活動を推進してまいります。

○　引き続き、発電所のパフォーマンス向上と、より高い水準のセキュリティの維持・強化に実直に取り組んでまいります。

○　本日私からは以上です。